



第 25 号

1998年 9 月

岡山県古代吉備文化財センター

▲ 西江遺跡（哲西町）出土特殊器台文様



集団墓地の全景（左が北）

弥生時代の集団墓地

— 熊山町・前内池墳墓群 —

岡山県古代吉備文化財センターでは、美作岡山道路の建設に伴う発掘調査を平成9年度より実施しています。平成9年4月より平成10年8月まで、赤磐郡熊山町の前内池墳墓群の調査を行いました。このたび、その一部において、弥生時代後期（今からおよそ2,000～1,700年前）の集団墓地が発見されました。南北にのびる尾根の鞍部を中心にして、南北約60mの範囲に、約180基を数える墓がつくられていました。死者を寝かせて葬ったと考えられる木棺墓・土壙墓が約120基、生まれてまもなく亡くなった子供を土

器に入れて埋めたと考えられる土器棺墓が約60基発見されました。

木棺墓・土壙墓については、長方形の墓壙（墓穴）を掘って木棺を入れその中に遺体をおさめた場合（木棺墓）と、木棺を使わずに直接遺体をおさめた場合（土壙墓）とがあったと思われませんが、木棺は現在では腐って無くなっているため、どちらだったのかはよくわかりません。ただし、墓壙の底に木棺の小口部分の板を固定したと考えられる穴（小口穴）をもつものがあり、これらは木棺を使っていたと考えられます。



調査風景（南から）



土器棺墓の調査



墓地を区画する石列（東から）



木棺墓（東から）

墓壇の大きさは様々ですが、大きいもので長さ3mほど、小さいものでは1mに満たないものもあります。その大きさから、大人ばかりでなく、子供もこのような木棺墓・土壇墓に葬られていたことがわかります。

土器棺墓は、弥生土器を棺として使った墓です。土器の大きさなどから判断して、乳児程度の子供を埋葬したと思われます。壺や甕を棺の身に使い、高杯や鉢で蓋をしています。

以上の木棺墓・土壇墓・土器棺墓の中から、玉や鉄製品などの副葬品はまったく出土していませんが、墓壇の床の一部に朱がまかれたものが少数ありました。

また、墓地の一部を方形に区画したと考えられる石列が発見されています。特に、平野に面する東側の石列は、細長い石を立てて並べ、立派につくられています。この石列には2.5mほど途切れる箇所があり、墓地への出入り口と考え

られます。また、石列によって区画された部分のほぼ中央に、柱穴がひとつ見つかりました。ひとつだけなので、建物の跡ではありません。おそらく一本だけ柱を立て、墓地の目印、あるいは祖先をまつるシンボルとしていたものでしょう。

今回発見された弥生時代後期の集団墓地は、約180基の墓に限られた範囲内に密集してつくられています。中でも土器棺墓の数が非常に多いという点で注目されます。土器棺墓の数と密集度は岡山県内でも最大のもので、また、墓地の中で中心となるような墓が見当たらず、副葬品がまったくないといった特徴から判断すると、それほど地位の高い人々の墓地であるとは思われませんが、大人から乳児にいたるまで非常に大勢の人々が、比較的丁寧に葬られた共同墓地ということができるといえるでしょう。

（尾上元規）

よみがえる古代の祈り

— 奥津町・久田原遺跡 —

苫田ダムの建設に伴う発掘調査は、今年で4年目を迎えています。すでに所報「吉備」第20号（1996年3月）・第23号（1997年9月）で発掘成果の一部を紹介してきましたが、今回は奥津町の中でも最大級の遺跡、久田原遺跡の新たな発見について紹介します。

久田原遺跡では縄文時代から室町時代にかけての生活拠点として、人々が居住してきたことが出土遺物や遺構の発見によってわかっています。この大きな理由は吉井川に近く、農耕に適した平地が広がっていることがあげられます。周囲には、豊かな動植物をはぐくむ丘陵や緑豊かな山並みが広がる、恵まれた自然環境に囲まれていたことも特筆されるでしょう。

この久田原遺跡は、古墳時代前期(約1600年前)に起きた吉井川の大洪水によって、弥生時代以前の地形が一変し、現在に近い平地になったことが明らかになりました。古墳時代後期(約1400年前)になると、砂礫に覆われた平地に小児を埋葬した須恵器の棺や、大きな石を積み上げた横穴式石室など計11基の古墳が築造されました。これらの古墳群は6世紀前半から7世紀前半にかけて、継続的に埋葬が続けられたことが様々な副葬品などから判明しています。

古代の久田原遺跡は、古墳時代から続く「村」が飛躍的に大きくなった時期で、18棟にのぼる建物や4棟の竪穴住居がまとまって検出され、



奈良時代の建物跡（北から）

その一部には、当時の郡や郷（奈良時代の最小行政単位＝村）の出先、すなわち公の施設も含まれている可能性も考えられています。

写真の陶馬は、建物群から北約90mで見つかった溝の中から発見されました。前脚・頭部・尾部・後脚の4点の破片が相次いで出土し、それらはすべてぴったりと接合することができました。陶馬は素焼きの土馬と違い、須恵器と同じように、専門の技術者が高温で焼いた硬い焼き物です。災いや病気をまき散らす悪い神が乗る馬として、厄払いの祭りの際に壊すために作られたものですが、工具を巧みに使い分けた前髪や鬣、そして微笑ましい目元の写実的な表現には古代人の祈りがこめられているようです。



陶馬（高さ13cm）



鉄鉢形の骨蔵器

また、建物群の50mほど西、当時の吉井川の川岸近くから火葬墓が1基見つかっています。これは、径60cmあまりの穴の中に火葬骨を納めた骨蔵器を安置したもので、穴の隙間には拳大の石を詰めていました。骨蔵器に使用された須恵器は、口径17cm、高さ13cmほどの底の丸い鉢形をしています。これは、仏教において供物を受けるのにもちいられた「鉄鉢」を模倣したもので、県内でも奈良時代の寺院や役所跡などからいくつか出土しています。

このような特殊な器を骨蔵器として使用し、なおかつ火葬という新来の葬法によって葬られた人物の存在は、一般の集落とは異なる、古代の久田原遺跡の性格を考える上で注目されています。

（岡田 博・亀山行雄）

北方藪ノ内・北方地藏遺跡の発掘調査

北方藪ノ内・北方地藏遺跡は、岡山市中井町1・2丁目に所在し、岡山市のほぼ中央部を流れる旭川西岸の沖積地にあたります。

発掘調査は、都市計画道路万成・国富線の建設に伴うもので、平成9年7月から平成10年7月までの約1年間行いました。

今回の調査で見つかった最も古い時期の遺構は、弥生時代から古墳時代にかけての溝です。北方藪ノ内遺跡では、北東から南西方向にほぼ平行して流れる6条の溝群が見つかり、規模の大きいものは幅5m、深さ1.5mもありました。しかし出土遺物が少なく、付近にも溝以外の遺構がみられないことから、これらの溝は当時のムラから離れた場所を流れ、下流の水田等に配水するための用水路であったと考えられます。

その後の平安時代にも、この地区は再び水路の集まる場所となっていたようです。調査で検出した溝の多くは、平安時代前期に洪水の砂で同時に埋まった状況でした。この洪水の元凶と考えられる旧河道が、溝群の東側で見つかっています。北から南に流れる旧河道の幅は約40mほどもあったと推定され、すべて砂で埋まっていた。周囲を砂で広く埋めつくすような大洪水であったと想像されます。

続く平安時代後期の注目すべき遺構として、径25cm、深さ15cmほどの大きさのピットがあります。蓋を被せるように伏せて置かれた完形品の碗を外したところ、さらにその下から人骨片



北方藪ノ内遺跡の調査風景（南東から）

や歯が見つかったのです。全体に施された釉薬がきれいな緑色に発色したこの碗は、当時の山口県で作られた緑釉陶器で、一部の有力者しか持つことの出来なかった貴重な製品です。

さて、中世になると土地の利用状況が大きく変わります。現在の西川の流れから東側については、水田が開かれ、西側については屋敷地が広がっていたようです。屋敷地には、建物・井戸・土塋・溝・土塋墓と無数の柱穴があります。また、北方地藏遺跡では、土器を焼くための粘土を採掘した跡と考えられる穴が調査区全面で見つかりました。中でも北方藪ノ内遺跡をほぼ東西に直線的に横切る溝は、幅4～5m、深さ1.5mを測り、鎌倉時代から安土桃山時代までの土器を数多く出土しました。この溝は、現在の東西方向道路のほぼ真下に位置するもので、平野を東西南北の碁盤の目状に区画する単位のひとつ、里境の溝となる可能性が高いものと考えられ、とくに注目されます。

出土遺物の中で特筆されるものに、写真の銅鏡片があります。これは、古墳時代前期の擬文鏡の一部で、推定復元径は約7cmです。中世の水田層から出土しました。また、古代の瓦片も中世の遺構や包含層から数多く出土しています。写真は複弁蓮花文の軒丸瓦一部ですが、古代の御野郡ではこれまで確認されていない寺院が本遺跡の周辺に存在していた可能性も考えられます。

（高田恭一郎）



銅鏡片



古代の遺物（左：軒丸瓦・右：緑釉陶器）

話題の出土品

百間川米田遺跡の墨書土器

百間川米田遺跡では、墨で字が書かれた土器が出土しました。平安時代末の堤防盛土からの出土ですが、形態からは奈良時代末の土師器と判断できます。表面に丹を塗った皿で、少しかすけてはいますが、底のまんなかあたりに「市」と書かれています。

このように墨で字が書かれた土器を墨書土器と言ひ、奈良時代から鎌倉時代にかけての須恵器あるいは土師器にみられます。吉祥句（おめでたい言葉）や人名・地名・使用された場所の名が書かれていることが多く、文献には残っていない建物の機能や遺跡の性格を考える手がかりとなります。

今回出土した墨書土器から推察されることは、奈良時代末に米田遺跡の近くに市が開かれていたのではないかということです。当時の市は中世に開かれる庶民の市と異なり、官衙（役

所）・貴族・社寺などが余剰物資を放出したり、必要物資の調達を行う所でした。今回出土した墨書土器は丹塗りであることと「市」の文字からみて、市にあった施設で使用されていた可能性が考えられます。

米田遺跡を市や港などから物資を運搬する交通の要衝と考えれば、発見された同時期の護岸遺構が大変入念に、また強固に作られている理由も説明できそうです。（大森充宏）



上東遺跡出土の漆容器

昨年度の調査において、波止場状遺構や線刻絵画文土器が出土し全国的にも注目された上東遺跡は、その調査区の整理をこの4月から始めています。整理作業は、まず大量の土器や木器の水洗いから始めていますが、この過程で新たな遺物が発見されています。

今回、取り上げる資料は、土器の中に“漆”を入れた物が2個体確認されました。両者とも“漆”が土器の底にわずかに残されたものでなく、それ一杯に遺存することから漆容器として使用されたと考えています。写真に示した物は、口径約5.8cm、器高6.1cm、底径2.1cmを測る鉢形土器です。

検出時において、すでに半截された状態で認められました。土器の割れ口が新しい状況を呈していたので、残されていないかと精査したが見出せていません。“漆”と考えられる淡黒色の内容物は、気泡状の部分が認められ、一部には

漆が固まるときにできる特徴的なシワが認められます。この内容物は分析の結果生漆であることが明らかになりました。

時期は、この土器の口縁端部と丸底にちかい形態から弥生時代後期後半頃と考えています。

県内においても漆が塗られた木器など、数は少ないが出土していることから、漆が用いられていたことがわかります。しかしながら、このように漆が容器とともに出土した例は、全国的にも少なく、それも同じ場所から2個体確認されたことは注目されます。（下澤公明）



漆容器の内部

センターの活動から

1. 最近の岡山県下における埋蔵文化財発掘調査報告会

近年、土地開発事業の急増を背景として埋蔵文化財の発掘調査件数も増加しています。そして、これに伴って貴重な遺構・遺物の発見もなされています。しかし、こうした埋蔵文化財の調査について、可能な限り現地での見学会の開催などを実施しておりますが、まだまだ一般の方々の中には触れられにくい状況であります。

そこで、当センターでは毎年1回、昨年度県下各地で行われた多くの発掘調査のなかからとりわけ重要な成果をあげたり話題を呼んだ遺跡を選んで、スライド上映を中心とした報告会を開催しています。多くの方々に見ていただくことによって、埋蔵文化財についての理解と啓発・普及に努めてゆきたいと考えています。

本年度は、昨年と同じく岡山県生涯学習センターの大研修室を会場にして、200名を上回る多くの方々の参加がありました。普段なかなか足を運びにくい場所にある遺跡や鬼城山など全国

的にも著名な遺跡の紹介とあって、参加者全員熱心にスライドに注目するばかりでなく活発な質疑応答も行われました。

なお、当日の要項は以下の通りです。

1. 日時 8月1日(土) 13:30~16:30
2. 場所 岡山県生涯学習センター大研修室
3. 報告遺跡

(1) 上東遺跡	県文化財センター
(2) 前内池遺跡	県文化財センター
(3) 日上畝山古墳群	津山市教育委員会
(4) 造山2号墳	岡山市教育委員会
(5) 鬼城山(鬼ノ城)	総社市教育委員会
(6) 百間川米田遺跡	県文化財センター
(7) 岡山城	岡山市教育委員会
(8) 大成山たたら遺跡群	県文化財センター



2. センター・発掘調査見学

本年度の上半期も多くの方々文化財センターあるいは発掘調査現場に見学にこられました。

センターには、社会科学習の一環として岡山市立綾南・桃丘・政田小学校や灘崎町立七区小学校の6年生が、また、研修を目的として岡山地裁司法修習生や岡山市立幼稚園教員の方々が

こられました。当センターでは、通常見学のできる展示室のほかに、遺物復元室、遺物実測室、保存処理室(木器・鉄器)および遺物収蔵庫などの施設があり、出土遺物の整理・保存や遺跡の調査報告書の作成といった業務を行っています。これらを、実際に見学して埋蔵文化財にた

いしての知識や関心を深めていただければと思います。

また、発掘現場では百間川米田遺跡に、岡山市立芥子山・可知・高島小学校の6年生や市立東山中学校の郷土研究クラブに米田新町子供会が見学にきました。新聞やニュースでも紹介された中世の橋の基礎部分や古代の護岸の跡と出土品を前に熱心に見入っていました。



3. ホームページ開設

当文化財センターでは、昨年10月からインターネット上でホームページを公開しています。最近では行政機関に情報公開が求められており、また個人でもインターネットに接続する環境が整っていることなどから、当センターとしても最新情報を広く発信していくことが大切である、という認識のもとに作成を行っています。

現在掲載している情報は、発掘調査の概要などの最新情報や、文化財センターの施設や組織

の紹介と、刊行した図書の案内ほかの特集記事です。内容の分量と詳細な内容については、日本全国の埋蔵文化財調査関連組織や大学と比べても遜色ないものと考えています。また、単純な構造のページなので、ほとんどのブラウザに対応しています。ぜひ一度ご覧ください。

なお、ホームページアドレスは

<http://www.pref.okayama.jp/kyouiku/bunka/kodaikibi/kodaik.htm>です。

4. 最近刊行された報告書

当センターでは、これまでに134冊の報告書が刊行されており、昨年度末にも以下の12冊が刊行されました。ここでは詳しい内容について触れることはできませんが、窪木遺跡や津寺遺跡などは数冊に及んだ発掘報告書の完結編であり、内容も盛りだくさんとなっています。

これらの報告書は、県内では、県総合文化センターや岡山市立図書館あるいは市町村教育委員会にあります。また各都道府県の関係機関などにも配布しており、学術研究や埋蔵文化財の普及・啓発のために活用されています。

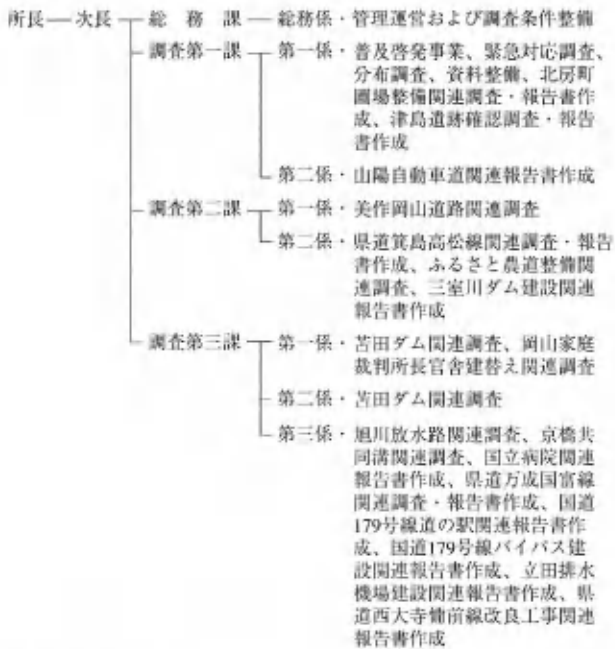
内容などについて詳しく知りたい方は、古代吉備文化財センターへお問い合わせください。

- ①『高下遺跡・浅川古墳群・榑原古墳群・根岸古墳』 国道2号改築に伴う発掘調査
- ②『窪木遺跡2』 岡山県立大学建設に伴う発掘調査Ⅳ
- ③『伊福定国前遺跡』 県立岡山工業高校建設に伴う発掘調査

- ④『北方下沼遺跡・北方横田遺跡・北方中溝遺跡・北方地藏遺跡』 都計道路万成・国富線建設に伴う発掘調査Ⅰ
- ⑤『津寺遺跡5』 山陽自動車道建設に伴う発掘調査15
- ⑥『大岩遺跡・田益田中遺跡・白壁奥遺跡』 山陽自動車道建設に伴う発掘調査16
- ⑦『大田茶屋遺跡2・大田障子遺跡・大田松山久保遺跡・大田大正開遺跡・大田西奥田遺跡』 グリーンヒルズ津山建設に伴う発掘調査
- ⑧『十六夜山古墳・十六夜山遺跡』 県立津山高校改築に伴う発掘調査
- ⑨『水別古墳群・水別遺跡』 県道別所下長田線雪寒事業に伴う発掘調査
- ⑩『段林遺跡・段林古墳』 県道矢掛寄鳥線改良に伴う発掘調査
- ⑪『室尾石生谷口古墳ほか』 主要地方道智頭八東線建設に伴う発掘調査
- ⑫『清水谷遺跡ほか』 県営矢掛町圃場整備に伴う確認調査

岡山県古代吉備文化財センターの組織と職員（平成10年度）

<組織>



<職員>

所次	長	葛原 克人
	長	大村 俊臣
総務課	長	小倉 昇
総務係	課長補佐(係長)	安西 正則
	主査	山本 恭輔
	主事	柚木 寿志・志摩 尚史
		黒住 尚良・金出進敬一
		間野 良一
調査第一課	長	高畑 知功
第一係	課長補佐(係長)	中野 雅美
	文化財保護主査	島崎 東
	文化財保護主任	大橋 雅也(文化課本務)
	文化財保護主事	渡邊恵里子・氏平 昭則
	主事	岡本 泰典・佐藤 寛介
		重根 弘和

第二係

課長補佐(係長)	江見 正己
文化財保護主査	井上 弘・二宮 治夫
文化財保護主査	平井 泰男
文化財保護主任	築地 由行・弘田 和司
	柴田 英樹
文化財保護主事	難波 拓史・室山 博文
主事	尾上 元規
	田坂 佳子・東 恵子

調査第二課

課長	伊藤 晃
----	------

第一係

課長補佐(係長)	浅倉 秀昭
文化財保護主査	内藤 善史
文化財保護主任	澤山 孝之
文化財保護主事	尾上 元規
主事	時實 奈歩・安倉 清博

第二係

課長補佐(係長)	下澤 公明
文化財保護主査	山磨 康平
文化財保護主査	光永 真一・土師 志満
文化財保護主任	田井 莊之助
文化財保護主事	金田 善敬・鮫原 啓介
主事	小林 利晴・米田 克彦

調査第三課

課長	梅瀬 昭彦
----	-------

第一係

課長補佐(係長)	岡田 博
文化財保護主査	権田 俊朗
文化財保護主任	井上 吉和
文化財保護主事	速水 章人・小嶋 善邦
主事	杉山 一雄

第二係

課長補佐(係長)	福田 正継
文化財保護主査	内田 博雄
文化財保護主任	龜山 行雄・小山 浩司
文化財保護主事	砂 泰務・根木 智宏

第三係

課長補佐(係長)	岡本 寛久
文化財保護主査	平井 勝
文化財保護主査	宇垣 匡雅
文化財保護主任	大森 充宏・高田恭一郎
文化財保護主事	物部 茂樹
主事	加藤 和歳



編集・発行

岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-0136

岡山市西花尻1325-3

TEL・FAX (086) 293-3211

<http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/bunka/kod aikibi/kodaiki.htm>

●交通案内

- ・JR山陽本線庭瀬駅下車タクシー10分
- ・JR吉備線吉備津駅下車徒歩25分
- ・JR岡山駅下車岡電バス岡山駅前より神道山行終点下車徒歩5分